

2025年11月14日

最近の長野県経済の動向 (月例調査)

概要

全国景気*	米国の通商政策等による影響が自動車産業を中心にみられるものの、緩やかに回復している
長野県内景気	足踏みの状態にある
8月の生産動向	生産は一進一退で推移
9月の個人消費	乗用車新車販売台数は3カ月連続で前年を下回る
9月の公共投資	公共工事保証請負額は2カ月ぶりに前年を上回る
9月の住宅投資	新設住宅着工戸数は5カ月連続で前年を下回る
9月の雇用情勢	有効求人倍率は2カ月ぶりに前月を上回る

今後は、米国の通商政策の影響や、個人消費に影響を与える実質賃金の伸びが安定的にプラスで推移していくかどうかを注視する必要がある。

※内閣府「月例経済報告(2025年10月)」より

照会先

一般財団法人 長野経済研究所 調査部

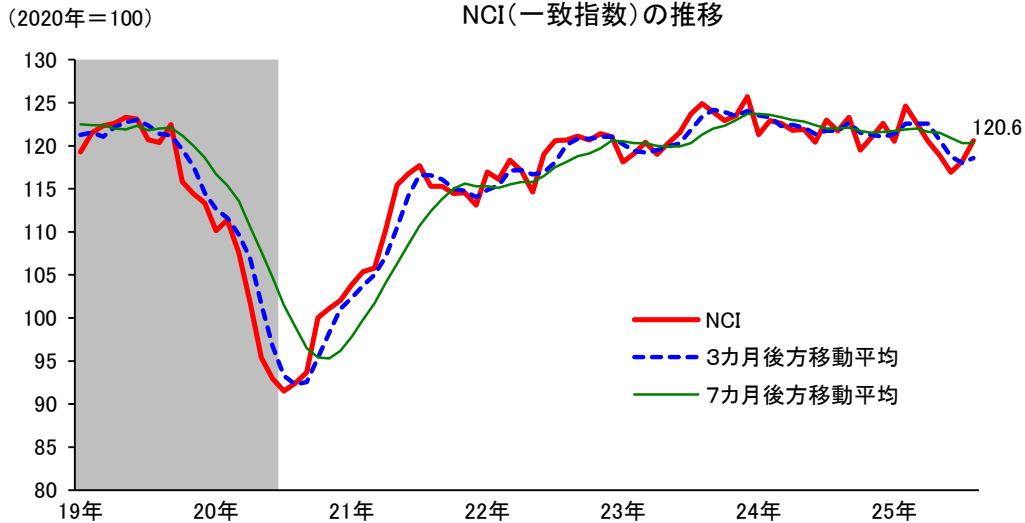
担当 桑井、須田

電話 026-224-0501

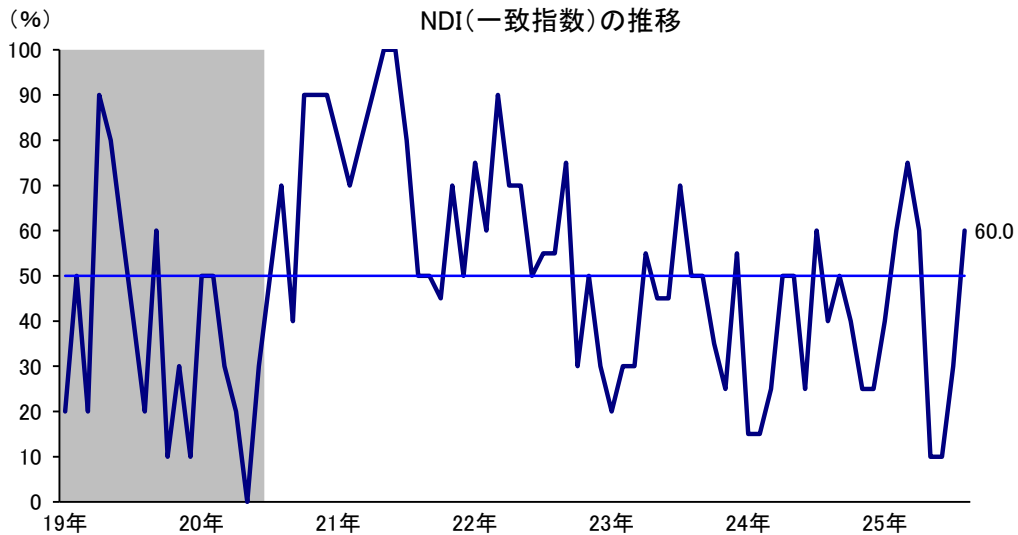


景気動向指数

- 8月のNCI(一致指数)は、120.6と前月と比較し+2.4ポイントとなった。3カ月後方移動平均は同+0.6ポイントと6カ月ぶりに上昇し、7カ月後方移動平均は同±0.0と前月から変化はなかった。NCI(一致指数)は、下方への局面変化を示している。
- NDI(一致指数)は、60.0%となり、景気判断の分かれ目である50.0%を4カ月ぶりに上回った。



(資料)当研究所「長野県景気動向指数」
 (注) 1.NCIは長野県の景気変動の大きさやテンポ(量感)を示す
 2.シャド一部分は長野県の景気後退期を示す

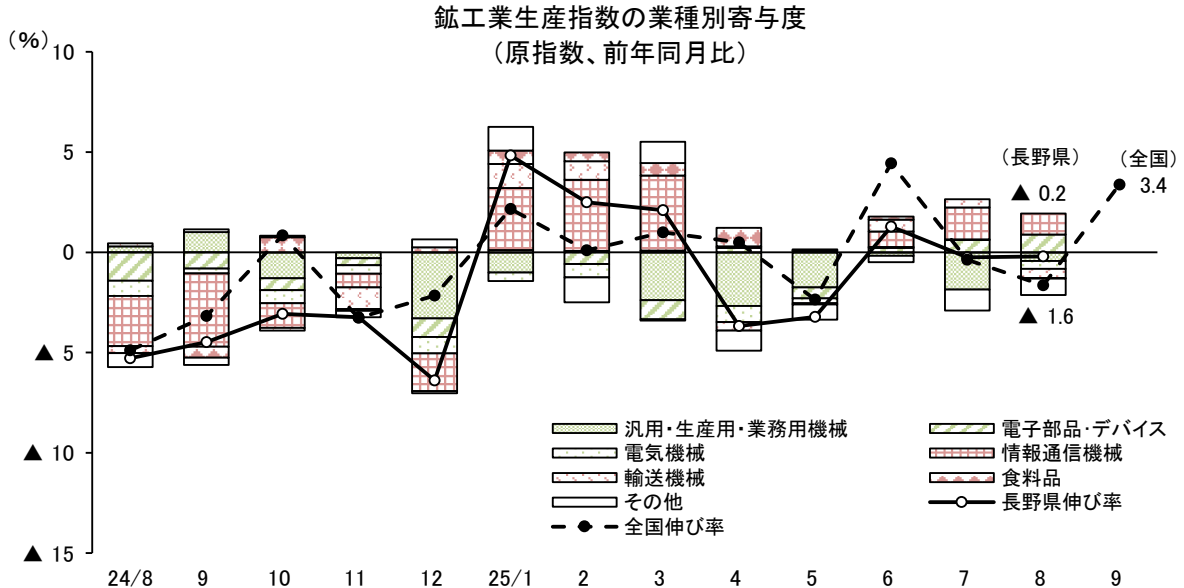


(資料)当研究所「長野県景気動向指数」
 (注) 1.NDIは長野県の景気の方角、波及度合いを示す
 2.シャド一部分は長野県の景気後退期を示す

生産

生産は一進一退で推移

- ・8月の鉱工業生産指数は、原指数が前年同月比 $\Delta 0.2\%$ 、季節調整済指数が前月比 $\Delta 0.6\%$ となった。
- ・季節調整済指数は2カ月ぶりに前月を下回ったほか、原指数も2カ月連続で前年を下回った。中国景気の低迷やIT関連需要が低調に推移する中、車載関連でも回復の動きが鈍化していることなどから、生産は一進一退で推移している。
- ・主要業種別にみると、「情報通信機械」「電子部品・デバイス」などが前年を上回ったものの、「輸送機械」「汎用・生産用・業務用機械」などが前年を下回った。



(資料)長野県企画振興部総合政策課統計室「長野県鉱工業指数」、経済産業省「鉱工業生産指数」

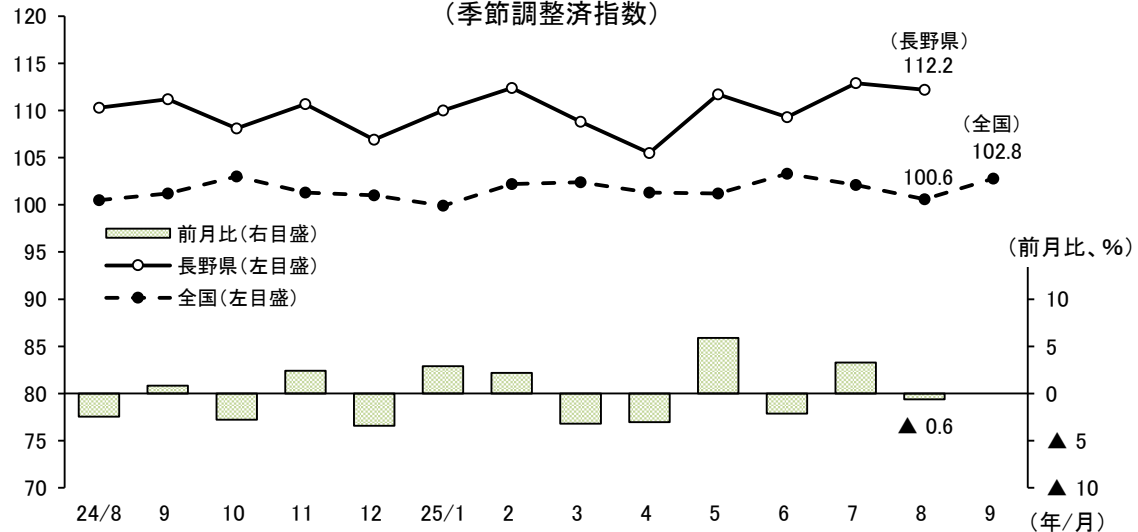
(注1)全国伸び率:25年9月分は速報値

(注2)長野県については、年間補正等に伴い2024年のデータを更新した

(年/月)

(2020年=100)

鉱工業生産指数の推移 (季節調整済指数)



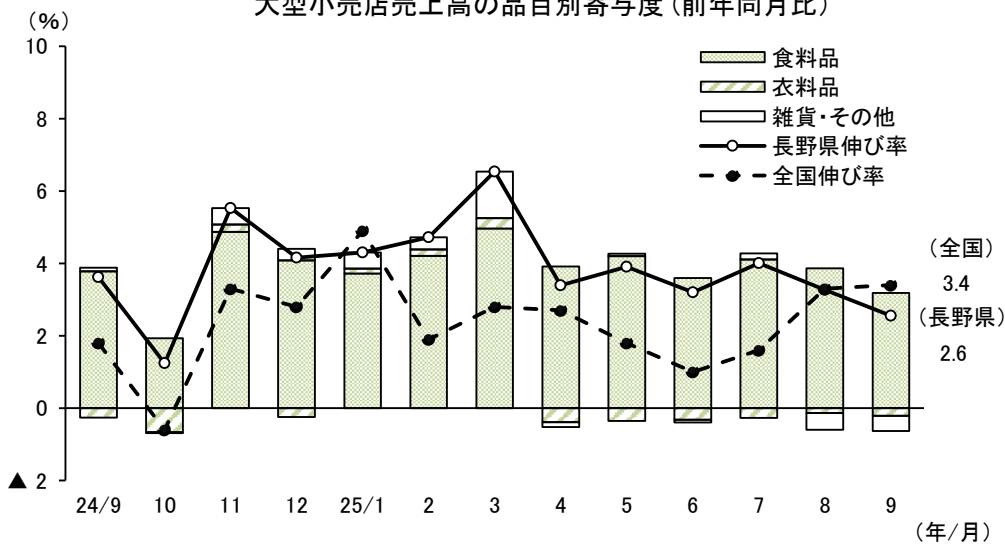
(資料)長野県企画振興部総合政策課統計室「長野県鉱工業指数」、経済産業省「鉱工業生産指数」

(注)全国:25年9月分は速報値

乗用車新車販売台数は3カ月連続で前年を下回る

- 9月の大型小売店売上高は、前年同月比+2.6%（売場面積調整前）となり、48カ月連続で前年を上回った。食料品は、コメや調味料等の販売価格の上昇などから、同+3.7%となった。衣料品は、月前半の残暑の影響から秋物衣料を中心に伸び悩み、同△6.5%となった。雑貨・その他は、物価高の影響を受けて生活雑貨を中心に伸び悩み、同△3.6%となった。
- 9月の乗用車新車販売台数は、小型車を中心に需要が伸び悩んだことにより、前年同月比△5.1%と3カ月連続で前年を下回った。車種別にみると、普通車は前年同月比+1.3%とプラスに転じた一方、小型車は同△20.1%、軽自動車は同△3.3%と前年を下回った。

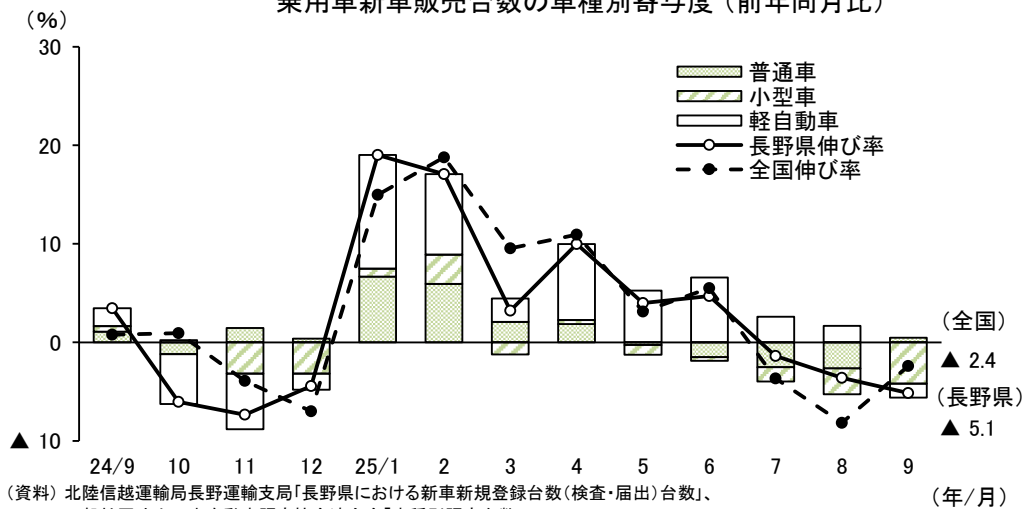
大型小売店売上高の品目別寄与度（前年同月比）



（資料）当研究所「長野県内大型小売店売上高の動向」、経済産業省「商業動態統計」

（注）全国伸び率：25年9月分は速報値

乗用車新車販売台数の車種別寄与度（前年同月比）



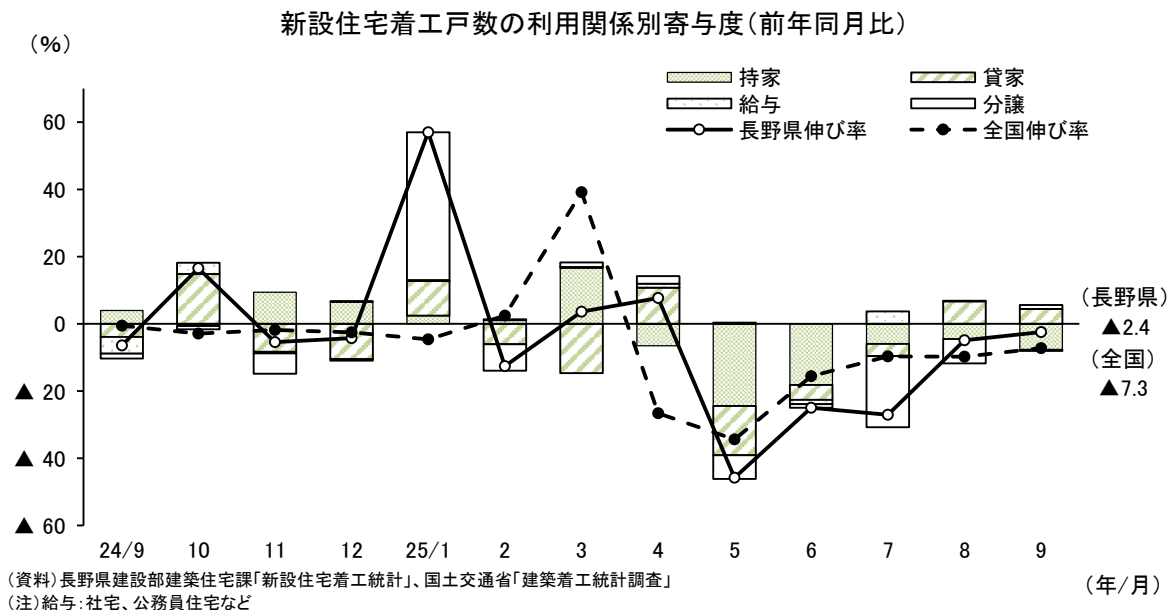
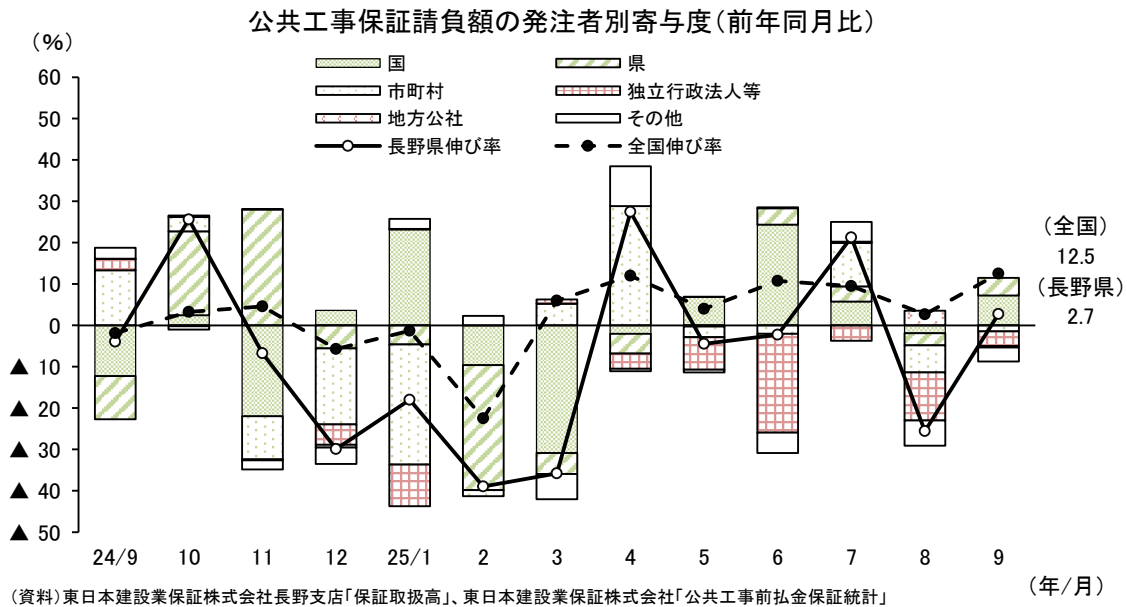
（資料）北陸信越運輸局長野運輸支局「長野県における新車新規登録台数（検査・届出）台数」、
一般社団法人日本自動車販売協会連合会「車種別販売台数」、
一般社団法人全国軽自動車協会連合会「軽四輪車新車販売台数確報」

（注）普通車：3ナンバー車、小型車・軽自動車：5ナンバー車

建設投資

公共工事保証請負額は2カ月ぶりに前年を上回る

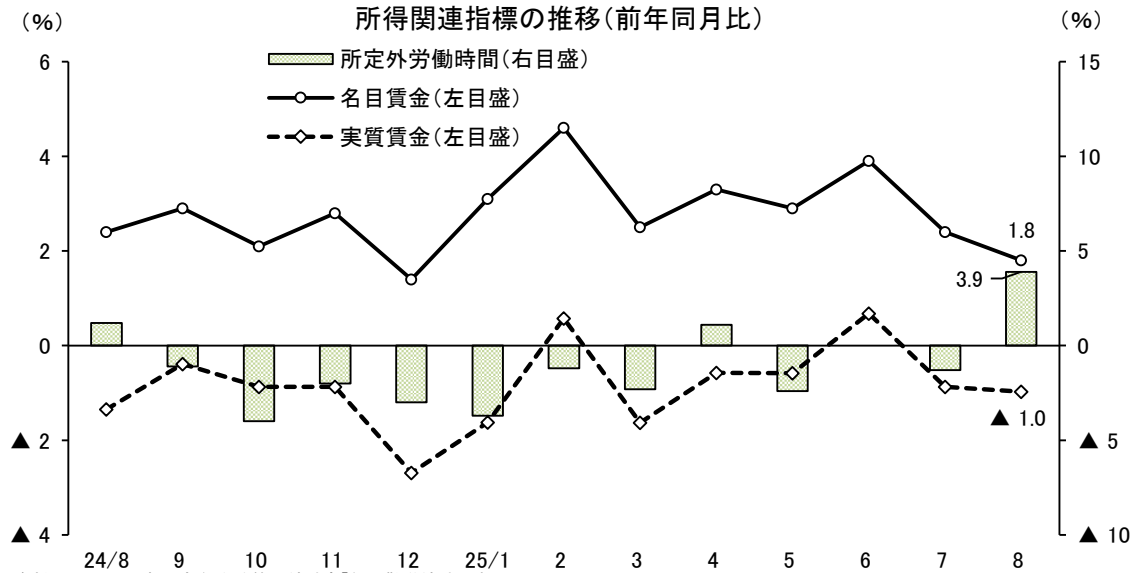
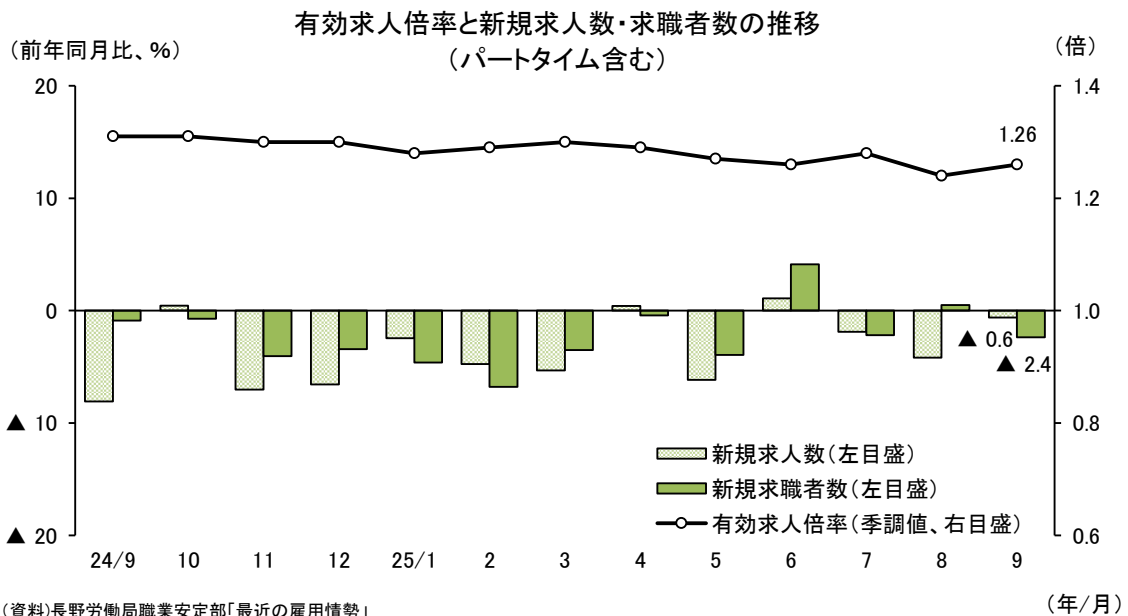
- 9月の公共工事保証請負額は、前年同月比+2.7%の137億7,400万円となり、2カ月ぶりに前年を上回った。発注者別にみると、市町村が同△2.4%、地方公社が同△21.6%、その他が同△61.4%と減少したものの、国が同+88.2%、県が同+19.2%と増加した。
- 9月の新設住宅着工戸数は、前年同月比△2.4%の883戸と5カ月連続で前年を下回った。利用関係別にみると、貸家が同+14.5%、分譲が同+11.6%と増加したものの、持家が同△13.2%、給与が同△75.0%と減少した。



雇用

有効求人倍率は2カ月ぶりに前月を上回る

- ・9月の有効求人倍率は、前月比+0.02ポイントの1.26倍となり、2カ月ぶりに前月を上回った。
- ・新規求人数(全数)は前年同月比△0.6%となり、3カ月連続で前年を下回った。このうち常用は同△1.2%、パートは同△0.6%となった。主要産業別では、建設業が同+15.7%、運輸業、郵便業が同+9.5%、医療、福祉が同+4.8%となるなど5産業は前年を上回ったが、製造業が同△8.8%、サービス業が同△2.5%、卸売業、小売業が同△0.8%となるなど8産業は前年を下回った。
- ・新規求職者数(全数)は、前年同月比△2.4%と2カ月ぶりに前年を下回った。
- ・8月の名目賃金は前年同月比+1.8%と52カ月連続で前年を上回ったものの、実質賃金は同△1.0%と2カ月連続で前年を下回った。所定外労働時間は同+3.9%と4カ月ぶりに前年を上回った。



(注)1. いずれも従業員規模5人以上の共通事業所のみを集計
 2. 名目賃金の前年同月比は、きまって支給する給与の実額比較による
 3. 実質賃金の前年同月比は、名目賃金と長野市の消費者物価指数(持家の帰属家賃除く総合)から当研究所が計算

(年/月) ⑤

県内地域別・近隣都県別有効求人倍率

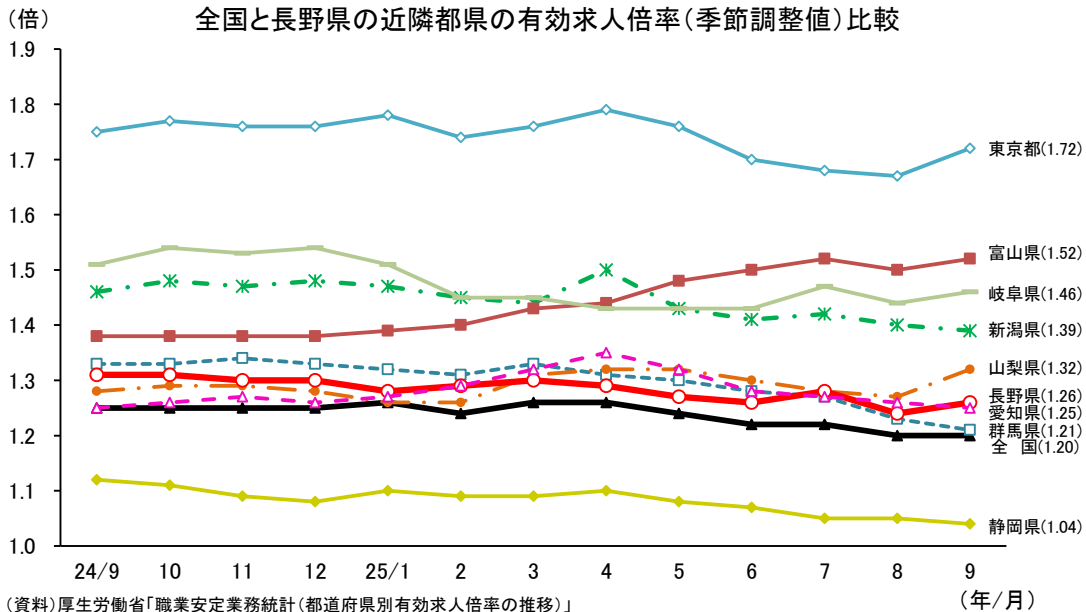
有効求人倍率は東信を除き前年を下回る

- ・9月の地域別有効求人倍率(全数)は、北信が前年同月比△0.08ポイントの1.25倍、東信が同+0.02ポイントの1.33倍、中信が同△0.05ポイントの1.32倍、南信が同△0.10ポイントの1.23倍となった。
- ・職業安定所別有効求人倍率(全数)は、大町が1.41倍と最も高く、次いで木曾福島が1.38倍となった。
- ・長野県の有効求人倍率は60カ月連続で全国を上回り、順位は前月から4つ上げ15位となった。

長野県職業安定所別有効求人倍率(実数値)(25年9月)

地域	北 信(1.25) (前年同月比▲0.08)				東 信(1.33) (前年同月比0.02)		中 信(1.32) (前年同月比▲0.05)			南 信(1.23) (前年同月比▲0.10)		
	長野	篠ノ井	飯山	須坂	上田	佐久	松本	木曾福島	大町	飯田	伊那	諏訪
全 数	1.28	1.12	1.30	1.36	1.31	1.35	1.31	1.38	1.41	1.29	1.18	1.24
前年同月比 (ポイント)	▲ 0.13	▲ 0.07	0.05	▲ 0.02	0.02	0.02	▲ 0.04	0.09	▲ 0.23	▲ 0.12	▲ 0.01	▲ 0.14
うち常用	1.17	1.09	1.09	1.21	1.23	1.32	1.20	1.23	1.11	1.22	1.05	1.15
前年同月比 (ポイント)	▲ 0.09	▲ 0.05	0.03	▲ 0.04	0.04	0.02	▲ 0.03	0.00	▲ 0.20	▲ 0.13	0.00	▲ 0.13

(資料)長野労働局職業安定部「最近の雇用情勢」
(注)実数値とは、新規学卒を除きパートタイムを含む季節調整前の原数値



(資料)厚生労働省「職業安定業務統計(都道府県別有効求人倍率の推移)」
(注)1. 新規学卒を除きパートタイムを含む
2. 長野県の近隣都県および、経済規模、産業構造が類似している県